

2026年
6月号
横浜市
衛生研究所

感染症に 気をつけよう

衛研インスタ
始めました！



今月の感染症流行状況



疾患名	流行状況	説明
侵襲性肺炎球菌感染症	注意	肺炎球菌が血液や髄液等に侵入し、菌血症や髄膜炎等を起こす感染症、乳幼児・高齢者に多い
腸管出血性大腸菌感染症	注意	気温が高くなる季節に患者数が増加する疾患 今後の動向に注意
麻疹 (はしか)	市内での報告あり	感染力の非常に強い疾患(空気感染) 海外渡航歴のない、国内感染の報告例あり

今月のトピック

肺炎球菌感染症とは

👉 肺炎球菌という細菌を原因とする感染症です

01 どんな疾患？

肺炎球菌について

- 健康な人でも鼻や喉の奥に常在している場合があります
- 咳やくしゃみなどにより、飛沫感染します

発症すると

- 発熱、咳、黄色や緑色のたん
- 肺炎、中耳炎、副鼻腔炎などを起こす
- 菌血症や髄膜炎を伴う肺炎等、重症化することもあります

02 ワクチンで予防しましょう

小児定期接種

- 無料で接種ができるのは生後2か月から5歳未満
- 接種方法 (標準的な4回接種のスケジュール)
(初回)生後2か月～7か月未満の間に接種開始、生後12か月までに27日以上の間隔で3回
(追加)3回目の接種後60日以上の間隔で生後12か月以降(標準は12か月～15か月)に1回

● 初回3回、追加1回の計4回の接種をおすすめしています



横浜市
予防接種について

- 詳しくは横浜市ホームページをご覧ください
※成人対象の定期接種(年齢等による制限あり)もご確認いただけます



横浜メディカル
ダッシュボード

これからの季節は夏の感染症に注意！

横浜市感染症情報センター6月15日発行